

1 評価表 (H27)

〔 P1～P3 県立広島病院
P4～P6 県立安芸津病院 〕

経営計画の取組状況【平成27年度】

① 県立広島病院 評価表(その1)

1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価(案)	委員会意見(取りまとめ案)
1 医療機能の強化と患者サービスの向上						
1	救急医療機能の強化	略	略	◎	◎	総合診療科救急対応医の配置や当直研修医の増員、さらにはトリアージナースの強化など、脳・心臓血管センターの運営を含め、救急受入体制を充実させた結果、救急車受入れ台数が増加しており、また、4回以上受け入れ拒否事例の救急車受入れ件数が市内医療機関で第1位、さらにはドクターヘリ運行により数多くの重症者を受入れるなど、積極的な取組が高く評価できる。
2	成育医療機能の強化	略	略	◎	◎	NICUの増床や、子育て支援連携強化会や広島県新生児看護ネットワーク会議の開催などにより、ハイリスク分娩数や新生児搬送受入れ件数は増加しており、広島県内のセンターとしての機能を十分に発揮している。 特に、県内1kg未満の極低出生体重児事例の約40%に対応していること、および、広島県行政の少子化対策・児童虐待対応などにも積極的に協力していることは、高く評価できる。
3	がん医療機能の強化	略	略	◎	◎	「腫瘍センター」を開設し、がんの「集学的治療」や「低侵襲手術」を実施するなど、「がん診療連携拠点病院」としての医療機能の充実・強化に努めている。 また、症例数のみならず、緩和ケア等質の面においても充実を図ったことで、多くの県民に信頼されたことが利用者の増加に繋がっており、高く評価できる。
4	地域医療への貢献	略	略	◎	○	地域医療機関とのKBネットの構築と連携機関証の発行、地区医師会との懇談会の開催や地域への積極的な出前講座など、地域医療との連携構築に努力しており、90%前後の高い紹介率・逆紹介率を維持している点は評価できる。 一方で、中山間地域への医師派遣は年間45回、看護師派遣は2名に留まっており、医療従事者不足地域への支援は、十分とは言えない。 また、「性被害ワンストップセンターひろしま」など、利益に直結しなくとも、県民の福祉に期する事業への積極的な取組を期待する。
5	医療の安全と質の向上	略	略	◎	◎	ヒヤリ・ハット事例の収集・分析・対策立案など、医療安全の向上に向けた多角的な取組が継続している。 また、全国規模の臨床評価事業への参画や治験・臨床研究の取組、クリニカルパスの活用、さらにはTQM活動など、医療の質の向上に精力的な取組は高く評価できる。

委員評価	委員意見(各意見)
◎4 ○2	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の要請に応じた対応、新たな展開に対する行動を高く評価した。(谷田) ■脳心臓血管センターの運営等改革に対して積極的な取組が評価される。(木原) ■総合診療科救急対応医の配置や当直研修医の増員、さらにはトリアージナースの強化など、受け入れ態勢を充実させた結果、救急車受入れ台数は年間5,000台を突破した。とくに、4回以上受け入れ拒否事例の救急車受入れ件数が市内医療機関で第1位、さらにはドクターヘリ運行による数多くの重症者の受入れは、高く評価できる。(塩谷) ■救急受入体制の強化を評価する。(楢谷) ■救急車の受入数が増加しており評価できる。(平井)
◎5 ○1	<ul style="list-style-type: none"> ■県行政の一翼を担ったことが示されている点を高く評価する。(谷田) ■大幅に新規受入数が増加し、広島県内のセンターとしての機能が充実している。(木原) ■NICUの増床に加えて、子育て支援連携強化会や広島県新生児看護ネットワーク会議の開催などにより、ハイリスク分娩数や新生児搬送受入れ件数は増加しており、広島県成育医療の「最後の砦」としての医療機能を十分に発揮している。とくに、県内1kg未満の極低出生体重児事例の約40%に対応していること、および、広島県行政の少子化対策・児童虐待対応などにも積極的に協力していることは、高く評価できる。(塩谷) ■NICU強化、少子化・虐待対応を評価する。(楢谷) ■NICUの増床、助産師外来患者数の増加など評価できる。(平井)
◎5 ○1	<ul style="list-style-type: none"> ■さまざまな取組が、多くの県民に信頼されたことが利用者の増加に繋がったものと考えられる点を高く評価する。(谷田) ■症例数のみならず、緩和ケア等質の面においても充実を図ろうとしている。(木原) ■「腫瘍センター」を開設し、がんの「集学的治療」や「低侵襲手術」を実施するなど、「がん診療連携拠点病院」としての医療機能の充実・強化に努めている。さらには、「広島がん高精度放射線治療センター」の運営も支援しており、高く評価できる。(塩谷) ■緩和、相談を含めてがん対策を評価する。(楢谷) ■がん患者数が大きく増加しており、がん専門医よろず相談所など多くの県民のよりどころとなっている。(平井)
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> ■もっと多くの接点をもてるよう工夫して欲しい。(谷田) ■地域医療との連携構築に努力しておられる。(木原) ■地域医療機関とのKBネットの構築と連携機関証の発行、地区医師会との懇談会の開催など、医療連携の強化・充実に努め、90%前後の高い紹介率・逆紹介率を維持している。一方、中山間地域への医師派遣は年間45回、看護師派遣は2名にとどまっており、医療従事者不足地域への支援は、十分であるとは言えない。(塩谷) ■地域への積極的な出前を評価。(楢谷) ■「性被害ワンストップセンターひろしま」の試験運用が始まったところだが、知事も「病院拠点型」への移行を表明しており、県立広島病院の名前がこれまでに上がっているようだ。こうした利益に直結しないが、県民の福祉に期する事業に積極的に取り組むべきである。(平井) ■紹介率よりも医師の派遣をここでは重視した(和田)
◎4 ○2	<ul style="list-style-type: none"> ■DPC病院Ⅱ群と医療の質との関係をわかりやすく示す必要がある。(谷田) ■多角的に医療安全に対する向上の取組があり、継続している。(木原) ■ヒヤリ・ハット事例の収集・分析・対策立案など、医療安全に対する取組は、適切に実施されている。また、全国規模の臨床評価事業への参画や治験・臨床研究の取組、クリニカルパスの活用、さらにはTQM活動など、医療の質の向上に精力的に取り組んでいる。(塩谷) ■TQM活動を評価(楢谷) ■さまざまなきめこまかい取組を実施している。(平井)

経営計画の取組状況【平成27年度】

① 県立広島病院 評価表(その2)

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価(案)	委員会意見(取りまとめ案)
1 医療機能の強化と患者サービスの向上						
6	患者サービスの向上	略	略	◎		<p>地域巡回講演会や地域健康フォーラム、数多くの各種患者会の開催、さらには患者満足度調査など、継続的に患者サービスの向上に努めているが、待ち時間の改善に課題が残る。</p> <p>また、入院サポートナースを新たに配置し、患者・家族の不安軽減に向けた入院サポートの充実が評価できる。</p> <p>公平性の観点から県全域に県立病院の取組が広がることを期待する。</p>
2 人材育成・確保・派遣機能の強化						
7	医療人材の育成・確保・派遣	略	略	◎	◎	<p>初期臨床研修医は9年連続フルマッチし、初期臨床研修医の県内定着へ貢献している。</p> <p>数多くの海外学会発表や認定資格取得のための財政的支援、県内医療従事者に対する教育研修、さらには講演会などへの看護師派遣など、積極的に人材育成に取り組んでおり、評価できる。</p>
3 危機管理対応力と経営力の強化						
8	危機管理対応力の強化	略	略	◎	◎	<p>高い救急支援、災害支援体制を構築し、それが継続されており、DMAT要請に対し、迅速に対応できている。</p> <p>また、災害や感染症の対策訓練も定期的を実施するなど、基幹災害拠点病院としての役割を果たしており、高く評価できる。</p>
9	経営力の強化	略	略	○	○	<p>年間55回におよぶ院長ヒアリングの実施後に新規入院患者数が増加するなど、経営トップとフロントラインとのコミュニケーションが持たれ、それが作用している。</p> <p>また、委託職員と病院職員の一体感醸成のための取組や、病棟間の垣根を排除してベッドコントロールを行うなど、経営力強化に向けた前向きな取組は評価できるが、病院の質向上のための設備投資も必要。</p>
10	増収対策	略	略	○	○	<p>新規入院患者数の増加、下半期における病床利用率の向上、各種診療報酬加算の取得などにより、医業収益は約8.5億円増加するなど、計画通りの取組がなされている。</p> <p>また、H28からのDPCⅡ群への参入が決定し、機能評価係数も高いことは評価できる。</p>

委員評価	委員意見(各意見)
◎3 ○3	<ul style="list-style-type: none"> 公平性の観点から県全域に県立病院の取組が広がれば◎。(谷田) 患者サイドに立脚した評価、改善の意図が浸透している。(木原) 地域巡回講演会や地域健康フォーラム、数多くの各種患者会の開催、さらには患者満足度調査など、継続的に患者サービスの向上に努めており、評価できる。(塩谷) 入院サポートを評価。連携室増員での退院への医・介支援サポートの充実を評価。(檜谷) 満足度調査で、待ち時間の問題が上がっており、まだ改善が必要。(平井)
◎4 ○2	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の派遣を高く評価する。(谷田) 研修医、看護師等において、学修の場の提供が行えている。(木原) 初期臨床研修医9年連続フルマッチ、初期臨床研修医の県内定着への貢献、数多くの海外学会発表、認定資格取得のための財政的支援、さらには、県内医療従事者に対する教育研修など、積極的に人材育成に取り組んでおり、評価できる。(塩谷) フルマッチを評価。(檜谷) 初期臨床研修医のマッチングにきめこまかく対応しており、研修にも積極的に取り組んでいる。(平井)
◎5 ○1	<ul style="list-style-type: none"> 県立病院としては当然の内容と思える。(谷田) 高い救急支援、災害支援体制を構築し、それが継続されている。(木原) DMAT人材育成に積極的に取り組むとともに、本年度は3事案に対し出動、また、災害や感染症の対策訓練も定期的を実施しており、評価できる。(塩谷) DMATの迅速な対応を評価。(檜谷) 基幹災害拠点病院としての役割を果たしている。(平井)
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> 経営トップとフロントラインとのコミュニケーションがもたれ、それが作用したと思われる点を高く評価する。(谷田) 病院の質向上のための設備投資はやや少ないようだ。(木原) 年間55回におよぶ院長ヒアリングの実施、それに伴う新規入院患者数の増加、委託職員と病院職員の一体感醸成のための取組、事務局が牽引するTQMなどの改善活動は、評価できる。(塩谷) 経営改善は病床利用率、平均在院日数、重症度、取るべき加算の漏れをなくすこと、病棟間の垣根排除など下半期の取組を評価。(檜谷) 経営力強化について、前向きに取り組んでいる。(平井)
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りの取組がなされたことを評価する。(谷田) DPCⅡ群への参入は高く評価できる。機能評価係数も高い。(木原) 新規入院患者数の増加、下半期における病床利用率の向上、各種診療報酬加算の取得などにより、医業収益は約8.5億円増加しており、評価できる。(塩谷) 医業収益が増加している。(平井)

経営計画の取組状況【平成27年度】

① 県立広島病院 評価表(その3)

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価(案)	委員会意見(取りまとめ案)
3 危機管理対応力と経営力の強化						
11	費用合理化対策	略	略	○	○	診療材料や検査試薬などの見直し、光熱水費の節約、委託契約の見直しなどにより、合計約1.5億円の材料費・経費を削減しており、評価できる。 今後は、信頼できるジェネリックを評価・採用し、90%を目指すなど、後発医薬品のさらなる利用拡大を期待したい。 なお、価格交渉については、透明性の確保に留意する必要がある。
4 2病院の協力状況						
12	2病院の協力状況	略	略	○	○	新人看護職員等職員交流会や看護研究発表会の共同開催、病院間での相互医師派遣、広島病院MEの安芸津病院への派遣は、評価できる。今後は、人的交流やコミュニケーションの状況をより分かり易く示しながら、引き続き連携強化に取り組むことを期待する。

2 取組結果

5 決算、目標指標						
13	収支改善、目標指標	略	略	○	○	目標指標11項目のうち、8項目について達成しており、また、不採算部門を担当しながら、様々な取組によって約1億円の経常収支黒字を達成したことは、高く評価できる。 一方で、年度末内部留保資金は26年度・27年度と2年連続して減少しており、資金収支の改善が必要である。

総合評価

「県民医療の最後の砦」として、創意工夫を凝らしながら、公共性と経済性をしっかりと両立させ、県民への強い自覚に基づいた運営がされていることは、全国の大規模自治体病院の模範となるものであり、高く評価できる。
 全体的に高い水準の医療提供と経営成績を残しているが、これに満足せず、県立中央病院としての特徴を更に示すような、新しい取組にチャレンジすることを期待する。
 なお、経営環境が厳しさを増す中、収支関連の仕組みについて説明責任を果たすべく、経営についての理解を深められることを希望する。

委員評価	委員意見(各意見)
○5 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■価格交渉という“買いたたき”手法は公営企業の用いる手法としては不適切と考える。(谷田) ■品質を落として価格を優先する方向性には、他の視点も入れてアセスメントしてゆくことが必要。(木原) ■診療材料や検査試薬などの見直し、光熱水費の節約、委託契約の見直しなどにより、合計約1.5億円の材料費・経費を削減しており、評価できる。今後は、後発医薬品のさらなる利用拡大を期待したい。(塩谷) ■信頼できるジェネリックを評価・採用し、90%とする。ランニングコストの見直しを評価。(榎谷) ■価格交渉については透明性の確保が求められる。(平井)
○6	<ul style="list-style-type: none"> ■人的交流やコミュニケーションの状況がみえない。(谷田) ■2病院の共同購入は当然ではないか。(木原) ■新人看護職員等職員交流会や看護研究発表会の共同開催、病院間での相互医師派遣、広島病院MEの安芸津病院への派遣は、評価できる。(塩谷) ■連携を引き続き強化してもらいたい。(平井)
◎2 ○4	<ul style="list-style-type: none"> ■さまざまな取組によって経常黒字となったことを高く評価する。(谷田) ■諸項目のほとんどについてほぼ達成している。(木原) ■約1億円の経常収支黒字を達成したことは、高く評価できる。しかし、年度末内部留保金は26年度・27年度と2年連続して減少している。(塩谷) ■不採算部門を担当しながらの経営改善を評価する。(榎谷) ■がん患者数が増えており、拠点病院としての役割を果たしている。(平井)
◎3 ○3	<ul style="list-style-type: none"> ■県立病院の政策的取組については多くの取組がなされている点を高く評価する。一方、それに付随する収支関連の仕組みについての取組は不十分であると評価する。経営環境が厳しさを増すことはわかっているから、説明責任を果たすべく、経営についての理解を深めていただきたい。(谷田) ■広島県が代表する基幹病院として、その公的性、県民への強い自覚に基づいた運営がされている。(木原) ■「県民医療の最後の砦」として、創意工夫を凝らしながら、公共性と経済性をしっかりと両立させていることは、全国の大規模自治体病院の模範となるものであり、高く評価したい。(塩谷) ■努力・実績とも高く評価するが県立中央病院としての期待を込めて今回は厳しめの評価とした。(榎谷) ■県立広島病院が、県民から信頼されている病院であることには間違いはないが、「公的」病院としての特徴をもっと示せるのではないかと期待を込めて。(平井) ■全体的に高い水準の医療提供と経営成績を残している。これに満足せず、新しいことにもチャレンジして欲しい。(和田)

経営計画の取組状況【平成27年度】

② 県立安芸津病院 評価表(その1)

1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	取組実績	自己評価	委員会評価(案)	委員意見 (取りまとめ案)
1 医療機能の強化と患者サービスの向上						
1	地域に必要な医療の提供	略	略	○	○	「地域包括ケア病床」の稼働率97%、在宅復帰率87%、「24時間訪問看護」の開始。退院患者全員に対する72時間以内電話訪問、地域の医療機関や行政との連携強化、さらには地域ケア会議・ネットワーク会議への参加や地域コミュニティとの連帯など、地域包括ケアシステム構築に向けた、地域医療提供モデルを模索する様々な取組は高く評価できる。 一方で、在宅療養支援機能としての、訪問診療・訪問看護・訪問リハの件数は、前年度に比べて減少しており、課題である。
2	医療の安全と質の向上	略	略	○	○	センサーベッドやサイドレールの設置など、転倒・転落予防対策を一層充実させている。また、相談業務に4,959件対応するとともに、インシデントレポート等による院内マニュアルを改訂するなど、医療安全対策への意識の高さが伺える。さらに入院と在宅の橋渡しとなる在宅復帰支援のため「院内デイケア」を開始し、患者ADLの向上に取り組んでおり、評価できる。
3	患者サービスの向上	略	略	○	○	施設の老朽化などハード面での制約がある中で、自らの課題抽出や、患者等からの意見への迅速な対応など、出来る事から患者サービス向上に努めており評価できる。 患者サービスには終わりはない。医療相談や総合案内など、サービス向上に向けた更なる充実を期待する。
2 人材育成・派遣機能の強化						
4	医療人材の育成・確保・派遣	略	略	○	○	限られた人員体制の中で、院内外での研修会開催、講演活動、学会活動や認定資格取得、さらには研修医の受入れや医師派遣など、非都市部における地域医療提供モデルとして、精力的に人材育成に取り組んでおり、評価できる。 今後は、地元が病院に何を期待しているかという視点から、地域に開かれた研修を行うことを期待する。
3 危機管理対応力と経営力の強化						
5	危機管理対応力の強化	略	略	○	○	限られた人材の中で、地域の防災・消火訓練への参加やネットワーク防災チームとの連携、災害支援ナースの配置や災害対策マニュアルの定期的な改定など、高い災害対策意識を持ち、大いに努力していることは評価できる。

委員評価	委員意見 (各意見)
◎2 ○4	<ul style="list-style-type: none"> ■地域医療提供モデルを模索するということで、さまざまな取組がなされている点を高く評価した。(谷田) ■親病院との人材の循環を強化する中で、安芸津病院しか提供できない医療の質を確保するべく努めて欲しい。(木原) ■「地域包括ケア病床」の稼働率97%および在宅復帰率87%、「24時間訪問看護」の開始、退院患者全員に対する電話訪問の実施、地域の医療機関や行政との連携強化、さらには地域ケア会議・ネットワーク会議への参加や地域コミュニティとの連帯など、地域包括ケアシステム構築への貢献は高く評価できるものの、在宅療養支援機能としての、訪問診療・訪問看護・訪問リハの件数は、前年度に比べて減少している。(塩谷) ■地域密着医療への努力を評価する。退院後72時間内の電話。健診増。あきつぽっと安心ネットワーク等評価できる。(楢谷) ■退院後72時間以内の電話訪問など評価できる。(平井)
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> ■デマンドに応じた対応はされているが、十分かどうかは分からない。(木原) ■センサーベッドやサイドレールの設置など、転倒・転落予防対策を一層充実させており、評価できる。また、在宅復帰支援のため「院内デイケア」を開始し、患者ADLの向上に取り組んでいることも評価したい。(塩谷) ■相談業務件数4959。院内マニュアルの見直し。院内デイケア。チーム活動等積極的な取組みを評価する。(楢谷) ■院内デイケアなど、入院と在宅の橋渡しとなる取組に引き続き力を入れて欲しい。(平井)
◎1 ○5	<ul style="list-style-type: none"> ■医療相談や総合案内は更に充実させて、地域との恩を広げて欲しい。(木原) ■施設の老朽化などハード面での制約がありながら、さまざまな視点からの患者サービス向上に努めており評価できる。しかし、患者サービスには終わりがなく、「○」評価とした。(塩谷) ■自らの課題抽出、意見への迅速な対応、出来る事からやろうとする努力を評価する。(楢谷)
◎1 ○4 △1	<ul style="list-style-type: none"> ■非都市部における地域医療提供モデルとして、それに関わる人材を育成しつつあるものと高く評価した。(谷田) ■全体に研修活動が活発であるとは言えない。地元が病院に何を期待しているかという視点から、地域に開かれた研修を行ってゆくことも可能ではないか。(木原) ■限られた人員体制の中で、院内外での研修会開催、講演活動、学会活動や認定資格取得、さらには研修医の受入れや医師派遣など、精力的に人材育成に取り組んでおり、評価できる。(塩谷) ■プライマリケアの専門家を育てて欲しい。(平井)
○6	<ul style="list-style-type: none"> ■限られた人材の中で、大いに努力されている。(木原) ■地域の防災・消火訓練への参加やネットワーク防災チームとの連携、災害支援ナースの配置や災害対策マニュアルの定期的な改定など、災害対策意識は高い。(塩谷) ■東広島地区の医療、介護との連携をより深めて欲しい。(平井)

経営計画の取組状況【平成27年度】

② 県立安芸津病院 評価表(その2)

番号	取組方針	取組項目	取組実績	自己評価	委員会評価(案)	委員意見 (取りまとめ案)
6	経営力の強化	略	略	○	○	27年度の病院組織目標を設定し、委託職員を含めた全ての職員を対象に説明会を開催しており、評価できる。 今後は、電子カルテ情報を地域のかかりつけ医と共有し、地域との連携を強固なものにするるとともに、患者視点に立った経営を心掛け、退院時の丁寧な支援にも力を入れることを期待する。
7	増収対策	略	略	△	△	地域包括ケア病床の稼働率は、97%と高水準であり評価できるが、診療報酬加算を新たに取得したものの、患者数や医療件数が低下傾向にあり、診療単価の伸び悩んだため、診療収益は対前年度比約3千万円の減少となっている。 今後は外来と入院だけでなく、訪問型へのシフトを検討されたい。
8	費用合理化対策	略	略	△	△	後発医薬品使用比率は、26年度の20%台から27年度は40%台に増加しているものの、全国平均を下回っており、一層の努力が必要である。 なお、人口が減少している地域であり、老朽化しつつある設備の更新等を、明確な計画を立てて臨むことを含め、今後の病院の在り方全体を考える視点が必要である。
4 連携強化						
9	(2病院)協力状況	略	略	○	○	一定の協力状況は伺えるが、広島病院への提供項目が不足している。広島病院からの提供項目についても、「来てもらう」から「来た限りはこれだけ喜んで帰ってもらう」という視点で相互協力すべきである。 共同の研修など、今後の連携をより深めることを期待する。

2 取組結果

5 決算、目標指標						
10	収支改善、目標指標	略	略	△	△	目標指標9項目のうち、健(検)診件数を除いた8項目の数値目標が達成できていない。未達成項目が多いことを重く受け止める必要がある。 地域かかりつけ医との連携は重要であり、低すぎる紹介率16%を抜本的に改善する必要がある。

委員評価	委員意見 (各意見)
○6	<ul style="list-style-type: none"> 導入された電子カルテ情報が、地域のかかりつけ医と共有されているか、その点が地域病院の要ではないか。(木原) 27年度の病院組織目標を設定し、委託職員を含めたすべての職員を対象に説明会を開催しており、評価できる。(塩谷) 地域包括ケア病床から退院を必要以上に急かすことのないよう、退院の際の支援にも同時に力を入れて欲しい。(平井)
△6	<ul style="list-style-type: none"> 政策事業の切り分けがなされていないため、増収対策の成果を判断しかねる。(谷田) 全体に受診者、医療件数の低下傾向が気になりである。(木原) 幾つかの診療報酬加算を新たに取得したものの、患者数や診療単価の伸び悩みのため、診療収益は対前年度比約3千万円の減少となった。地域包括ケア病床の稼働率は97%と高水準であり、評価できる。なお、未収金対策実施の成果について言及されていない。(塩谷) 外来と入院だけでなく、訪問診療へのシフトを図るべきではないか。(平井)
△6	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化しつつある設備の更新等については、明確な計画をたてて臨む必要がある。(木原) 後発医薬品使用比率は、26年度の20%台から27年度は40%台に増加しているものの、全国平均を下回っている。なお、診療材料の見直しの効果について言及されていない。(塩谷) 人口の減少に伴う、病院の在り方全体を考える視点が必要。(平井)
○5 △1	<ul style="list-style-type: none"> 広島病院への提供項目が不足していると評価した。(谷田) 「来てもらう」から「来た限りはこれだけ喜んで帰ってもらう」との意向を全てで欲しい。報酬だけではないはず。(木原) 医薬品の共同購入の成果について言及されていない。(塩谷) 共同の研修など、連携をより深めて欲しい。(平井)

△6	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率16%はいかがなものか。地域かかりつけ医との連携を抜本的に採る必要はないか。(木原) 9項目のうち、健(検)診件数を除いた8項目の数値目標が達成できていない。(塩谷) 高齢化し、人口が減る地域の容容に、病院の対応が追いついていないのではないかと。(平井)
----	--

経営計画の取組状況【平成27年度】

② 県立安芸津病院 評価表(その3)

番号	取組方針	取組項目	取組実績	自己評価	委員会評価(案)	委員意見 (取りまとめ案)
総合評価						<p>○</p> <p>病院の存在そのものが不採算であるにもかかわらず、限られた医療資源のもと、地域特性を反映した医療機能の発揮と地域包括ケアの後方支援としての役割、地域の病院としての存在意義へのチャレンジに努めており、評価できる。</p> <p>現実に高齢化し、人口が減っている地域の変容を踏まえ、地域に合う形での機能変革や、2病院間の人材循環の更なる促進によって一段高度でユニークな医療提供を企画するなど、今後のチャレンジを期待する。</p> <p>しかし、「経済性の発揮」も決して疎かにできない重要なことであり、より一層、経営基盤の強化に努められたい。</p> <p>なお、非都市部における地域医療提供モデルを目的の一つとした時、収支差のみが重視されないためにも、政策事業と医療事業の考え方を整理してはどうか。</p>

委員評価	委員意見 (各意見)
○4 △2	<ul style="list-style-type: none"> ■非都市部における地域医療提供モデルの開発を事業目的の一つとして考えたとき、政策として税金を用いて行う事業と、医療保険の現物給付者として行われる医療事業との区分について、考え方を整理しておく必要があるのではないかと考える。そうでなければ、さまざまな取組実績があるにもかかわらず、最終的に収支差のみが重視されてしまう点で公平性を欠くのではないかと懸念している。(谷田) ■2病院間の人材循環を更に促進することから、地域の中で一段高度でユニークな医療の提供を企てることが可能ではないかと思う。(木原) ■病院の存在そのものが不採算であるにもかかわらず、限られた医療資源のもと、地域特性を反映した医療機能の発揮と地域包括ケアの後方支援としての役割に努めており、評価できる。しかし、「経済性の発揮」も決して疎かにできない重要なことであり、より一層、経営基盤の強化に努められたい。(塩谷) ■地域の病院としての存在意義へのチャレンジが感じられる。(檜谷) ■収支改善・目標指標について未達成の項目が多いことを重く受け止める必要がある。病院の機能をもっと今の地域に合うよう、大胆に変えるべきではないか。(平井) ■もう一歩経営の努力が必要と感じています。(和田)